

楷書の形のとり方(1) 締切り 二月二十三日(必着)

奥村憲照書

◆等分割 横画の間隔 をそろえる	縦画の間隔 をそろえる	斜線の間隔 をそろえる	全体として 点画の間を そろえる
言書	川冊	勿家	空炎
◆外形 正方形	横長	縦長	台形
国同	西心	目身	反並

〔出品例〕

支筆 文名は	言	川	勿
	書	冊	家
段・筆位			
	空	国	西
氏名	炎	同	心
	目身	反	
		並	

【お願い】 出品数が大幅に増加しました。事務処理の正確を期すため、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績をご記入くださるようお願いいたします。

◎初心者向けの内容が好評でしたので今月からペン字の基本を四カ月に分けて学びます。お手本は、奥村憲照先生書「ペン字の手ほどき」から掲載しました。

◎毛筆での出品も、もちろん可能です。用具は何であれ「形のとり方」は共通です。

◎字形を美しく整えるために、古くから上のような基本法則があります。これらを身につけておけば、どの漢字でもバランスよく書けるようになります。基本法則を意識しながら繰り返し学んで、体に覚えこませましょう。

◎作品の出し方

上掲の図版で示した四行を書いて下さい。

▼硬筆部 一般部級用紙に上図のよう

うに書いて下さい。

※用具は自由(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に四行に書いて下さい。

▼出品制限の対象とはしませんが、どのあたりでも出品できますが、硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼優秀作品数を、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

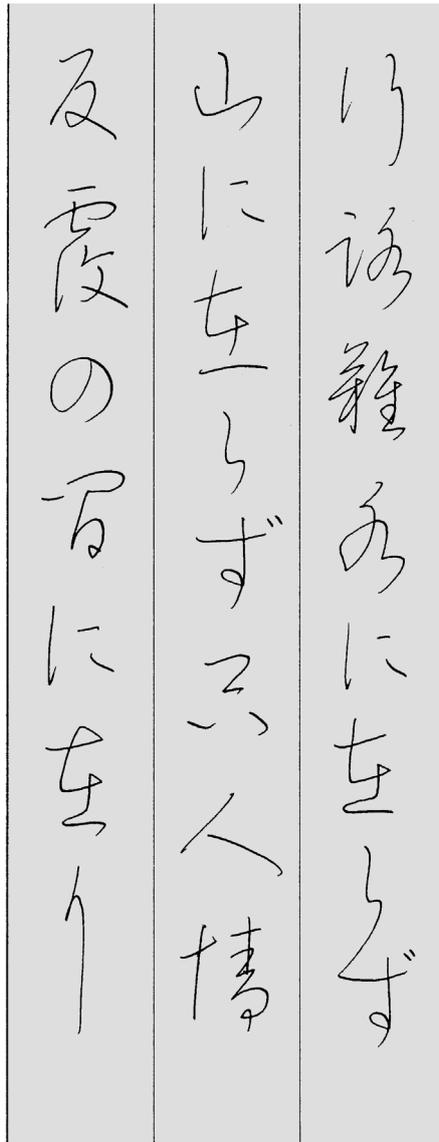
新入から1級まで

(解説)



草書はリズムと回転よく連ペンするとよい

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

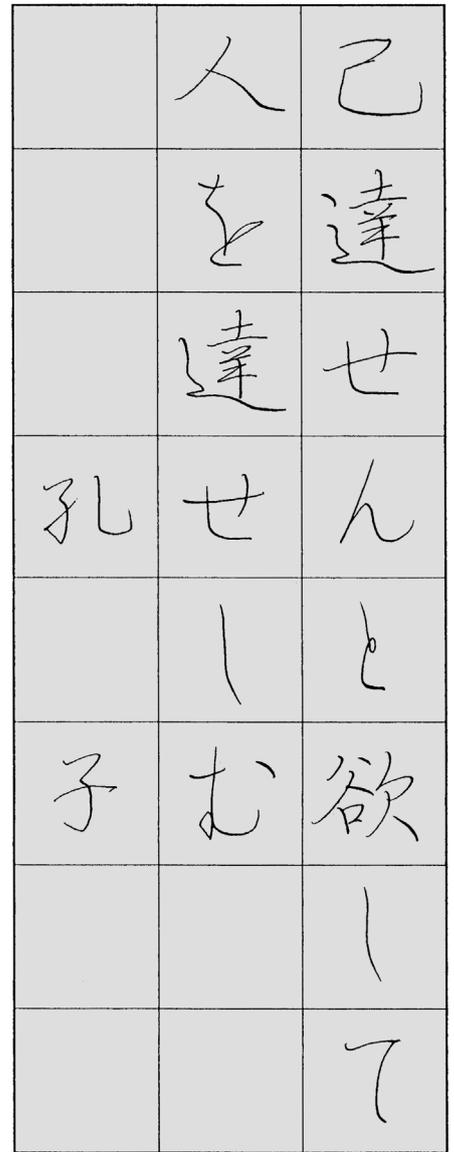


岡田龍芳書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

(解説)



大谷清城書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★己達せん：(書体Ⅱ行書)

孔子(前五〜前四七)

中国春秋時代の学者・思想家・儒教の開祖

「仁」について孔子が述べた言葉です。自分が望みを達成したければ、まず他人の望みを遂げさせることが大事だということです。

「己の欲せざる所は人に施す勿れ」(自分がしてほしくないことは、他人に對してもやってはいけない)という言葉も残っています。

◆3月課題予告(楷書)

穴を掘る者は自らこれに陥る
旧約聖書

★行路：(書体Ⅱ行草または草書)

白居易(七三〜八四) 中唐の詩人

「行路難」は道を行くことの困難なこと。「人情」は人の心。「反覆」はくるくる変わることを。

人生行路の難しさは、舟をもひっくり返す川を渡り、車も壊してしまう険しい山を越えることにあるのではない。ただ人の心がくるくる変わることにあるのだ、と言っています。

◆3月課題予告(行書)

人生は礼儀を守る

余裕のないほど

短くはない

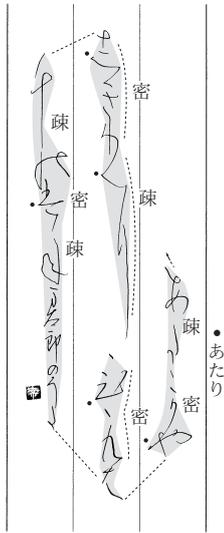
▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

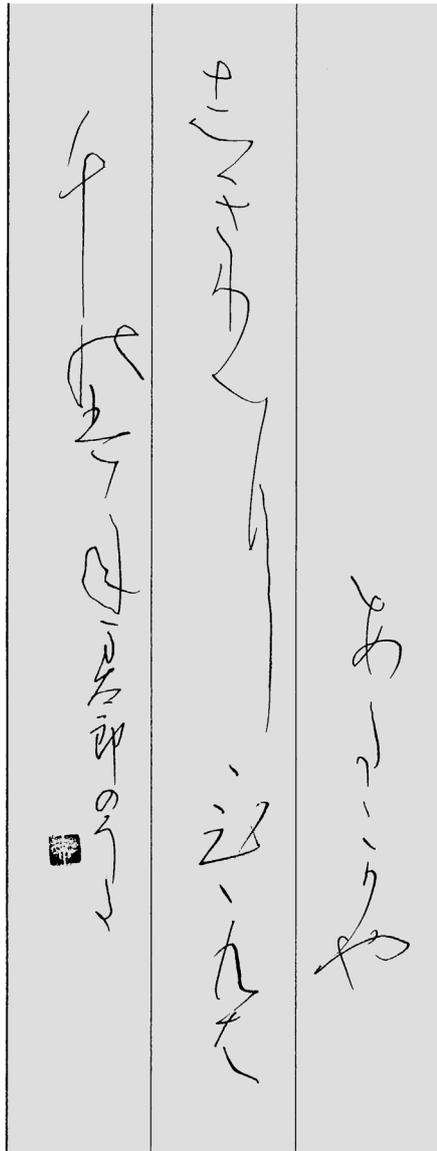
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



あ^多た^可か^志や^利し^耳き^飛り^九に^章ひ^草び^能く^盤蜂^年の^能翅^年



おぎ 荻 田 蒼 せん 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



あ^多た^可か^志や^利し^耳き^飛り^九に^章ひ^草び^能く^盤蜂^年の^能翅^年



おぎ 荻 田 蒼 せん 仙 書

▷用具=自由(黒色に限る)

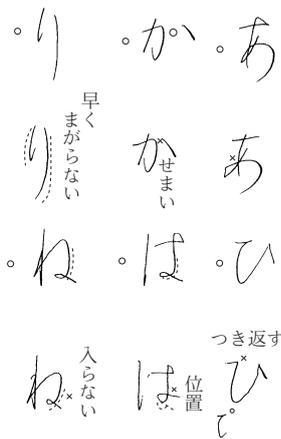
▷用紙=本会級位用紙

◆3月課題予告

岩^いす^すべ^べる^る水^みに^にう^うつ^つぶ^ぶす^す椿^{つばき}かな

(高野素十)

〔段位ワン・ヒント〕
さて今月は、すぐ書かないで、手本を見つめて連綿を目で追ってみて下さい。
そして切った所の間も大切なポイントです。その効果を見つめてから練習しましょう。



あ^多た^可か^志や^利し^耳き^飛り^九に^章ひ^草び^能く^盤蜂^年の^能翅^年
(久保田万太郎)
〔句意〕「あたたか」「しきりにひびく」に蜂の飛び交うさまや、春のひざしのこまやかさが出ています。春の恵に浴している生物に目をやり、弾む心が表れています。
〔級位ワン・ヒント〕
早く上手になる方法…多く書くことと言えはその通りですが、エライ先生方はそれぞれのコツを持たれ、その上で多く書かれています。だから個性美豊かな作なのです。機会があれば多くの先生方のコツを教えて頂けるような人間になる努力をしたいものです。今月は筆圧とリズムをいろいろ変えて比較してみてください。

締切り 2月23日(必着)

雛祭りパーティーのご招待有難う。
丁度近くに、雑誌にも掲載された
有名パティシエのお店がオープン
したので、デザートはどうぞ私に
おまかせを。愛ちゃんの大好きな
ショートケーキを持って行くね。

雛祭りパーティーのご招待有難う。
丁度近くに、雑誌にも掲載された
有名パティシエのお店がオープン
したので、デザートはどうぞ私に
おまかせを。愛ちゃんの大好きな
ショートケーキを持って行くね。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お か じ ま け い せん
岡 嶋 桂 川 書

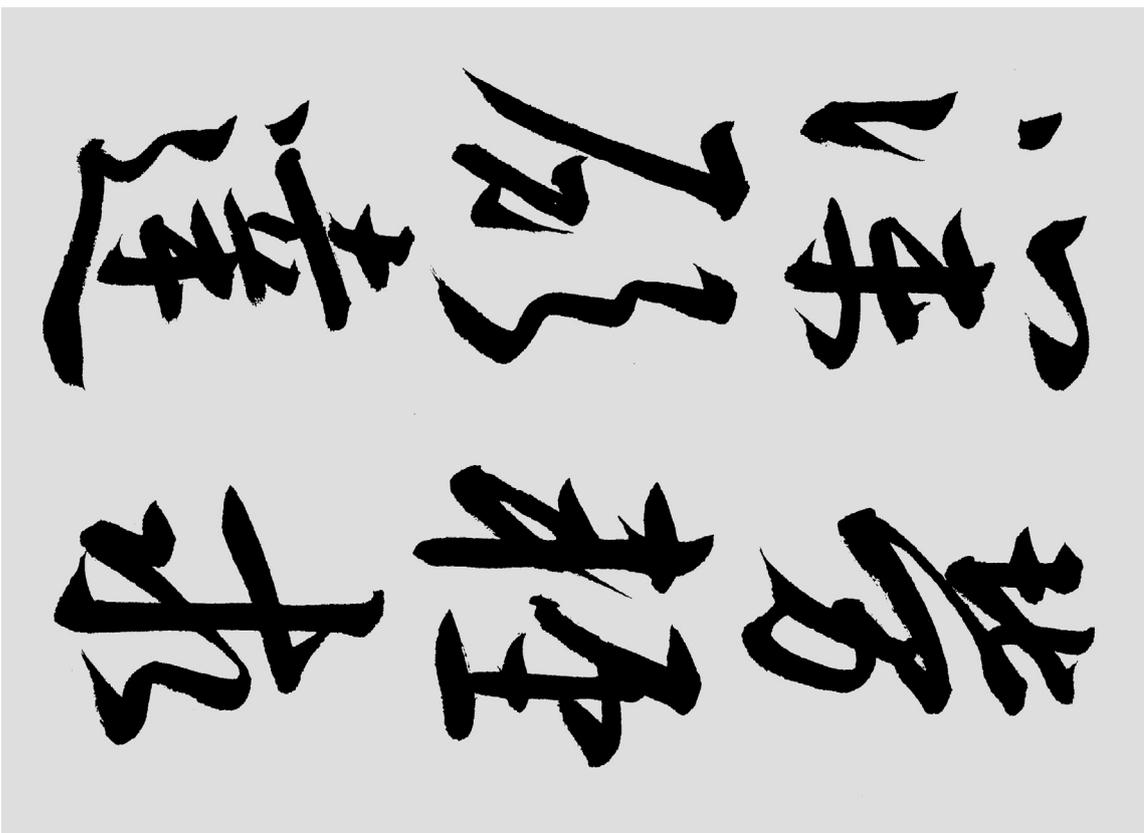
水仙はヒガンバナ科の球根植物で、
多くは2～4月に花を咲かせる。

富 山 県 射 水 市 氏 名

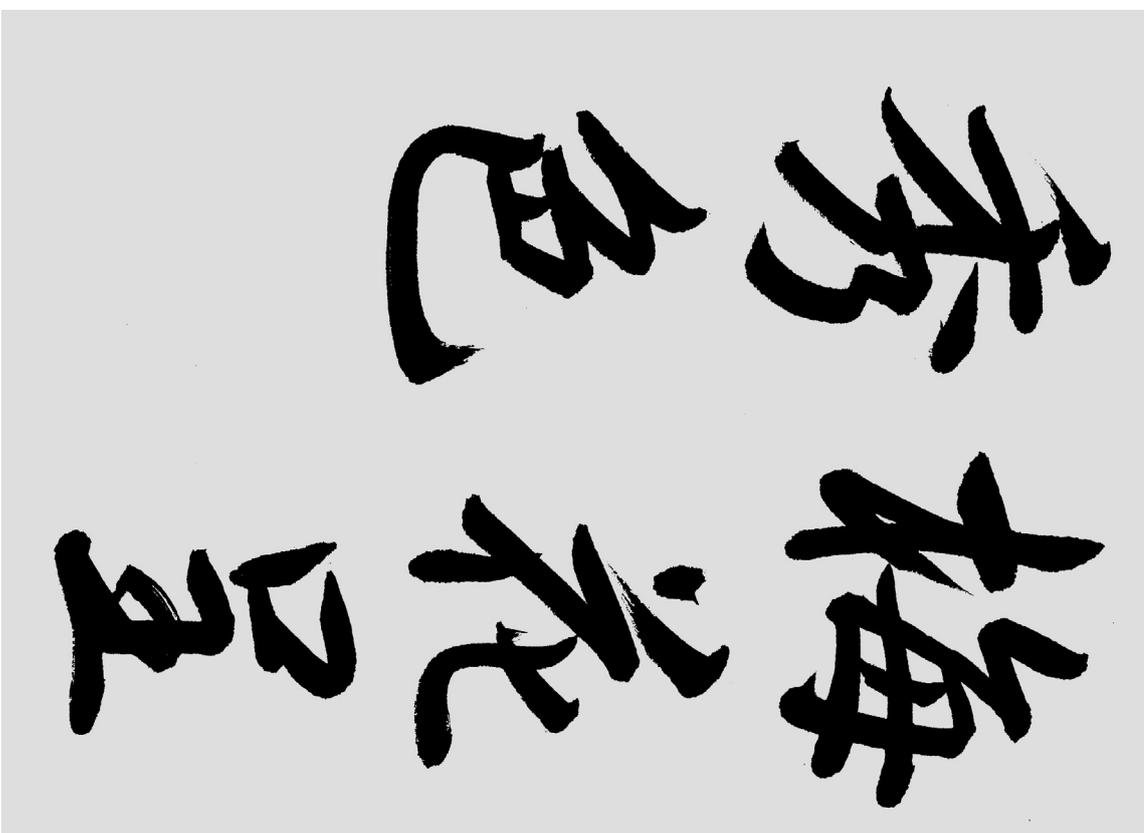
※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

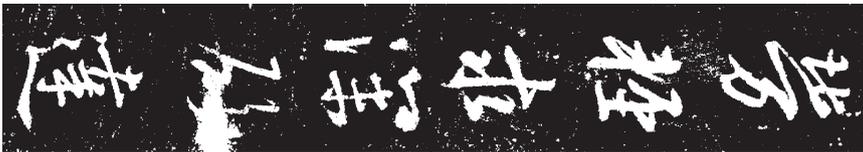
締切り 2月23日 (必着)



準初段から師範まで
奥村暢之臨



新入から1級まで (行書)
澤静雨書

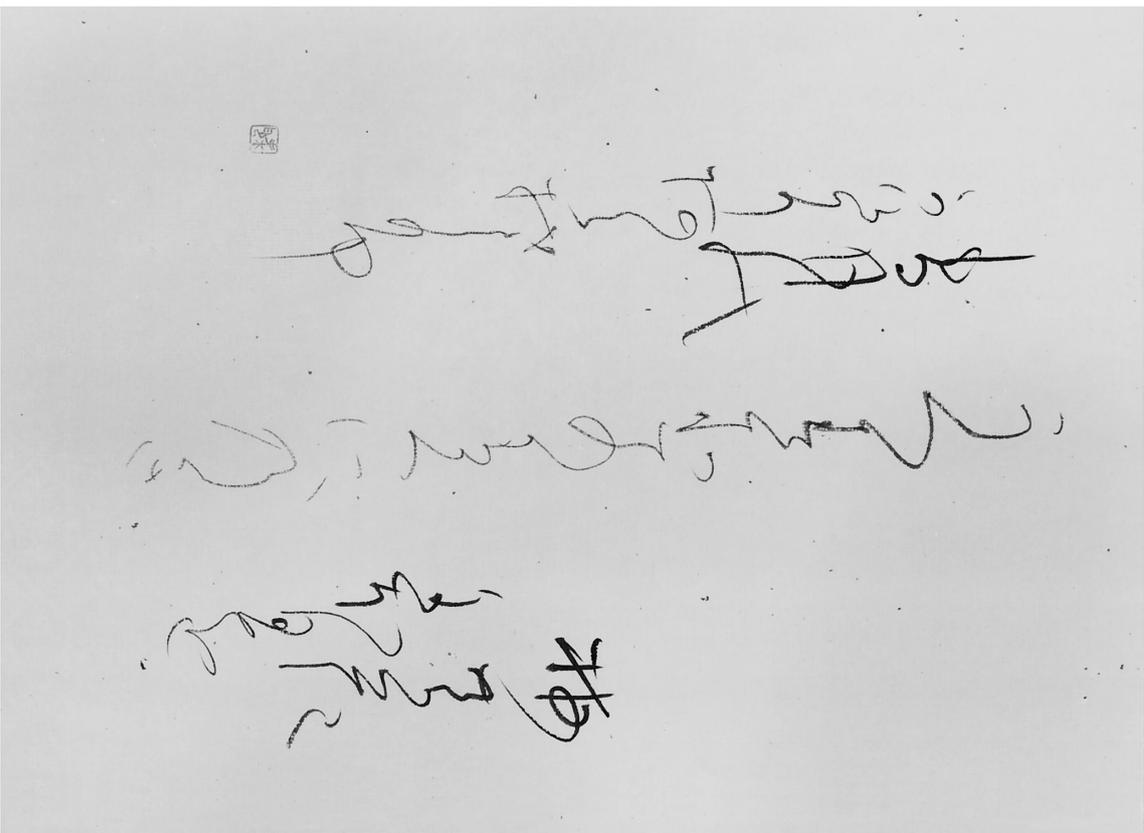


【出典】集字聖教序 (672) 【筆者】王羲之法書より集字
【読み】 深軽く、求深ければ願達す。

【読み】 梅花秀色を呈す
【大意】 百花にさきがけて咲いた梅の花はすぐれた色を示している。

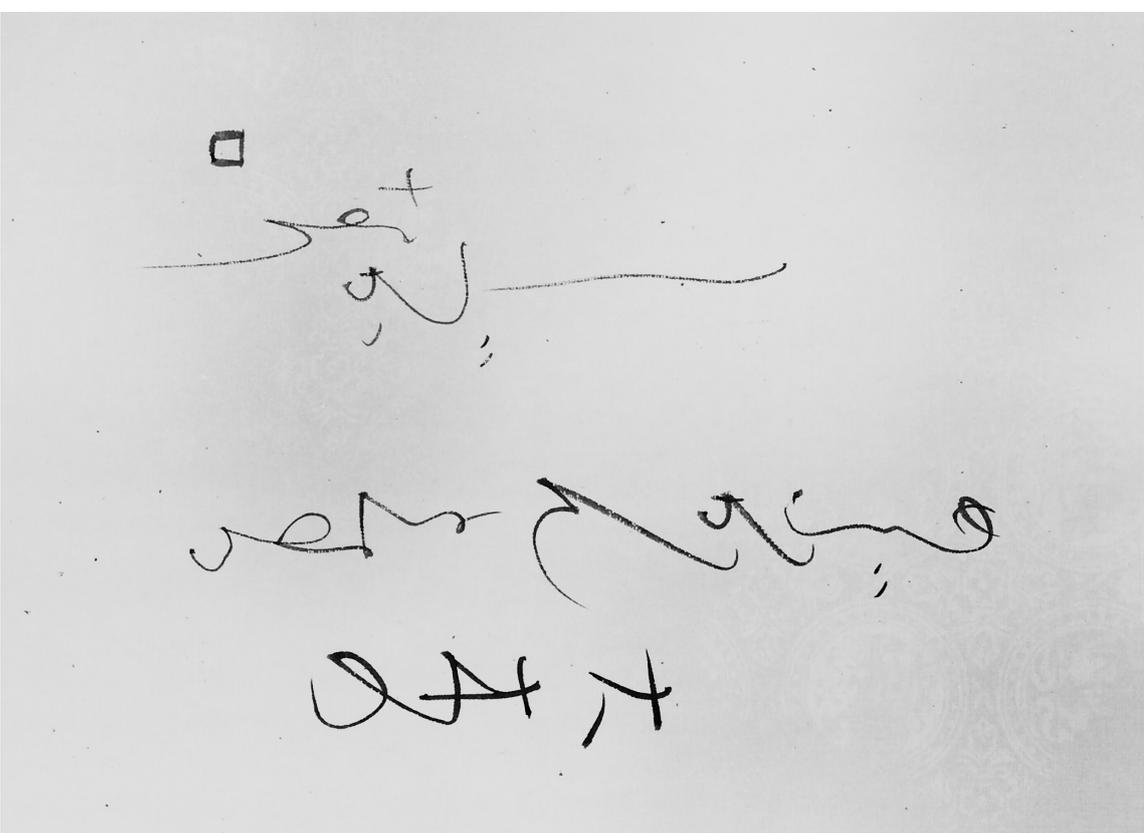
一般部毛筆かな課題

締切り 2月23日 (必着)



準初段から師範まで

大木の芽ふかんとするしづかなり



新入から1級まで

浅井機山先生書

梅の花にはひを移す袖のうへに
軒渡る月の影ぞあらそふ

〔出典〕 新古今和歌集 藤原定家

〔歌意〕 庭の梅の花が、その匂いを移しかおらせているわが袖の上に、軒を渡れてくる月が、その光を映して、花の匂いと争っている。

〔出典〕 長谷川素逝

〔句意〕 大空に充つる早春の光は大木の芽を促すようだ。その光に包まれて大木はどっしりと枝を張り、しずかに息づいている。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 二月二十三日(必着) 半切(一三六cm×三五cm)



新井清泉書

有梅も七更に堪 酒を 竹人 家不可居
 ばいあるところなおよきにたえたり
 たけなきじんかおるべからず
 無竹人家不可居 胡仲弓
 「大意」梅が咲いて
 いる処は酒を酌むに
 よいが、竹なき人家
 は詩人のおるところ
 ではない。
 初出品の方へ
 支部名・会員番号・
 姓名・毛筆漢字成績
 を、作品左下に必ず
 お書き下さい。

〔条幅解説〕 創作への展開 (角川書道字典より)

昨日庭を散歩して紅梅の蕾が
 淑かにほくろんでつるのを見つけ

りた寒い毎日が続きますが

春の息吹に胸がときめきました

山東明美

おお みや しゅん ちょう 書
 大 宮 春 兆

半紙 (334mm×240mm)

〔古典字例〕



昨日庭を散歩して紅梅の蕾が
 微かにほくろんでいるのを見つけ
 ました 寒い毎日が続きますが
 春の息吹に胸がときめきました
 (ご自分の氏名)

・印で墨つきしました。

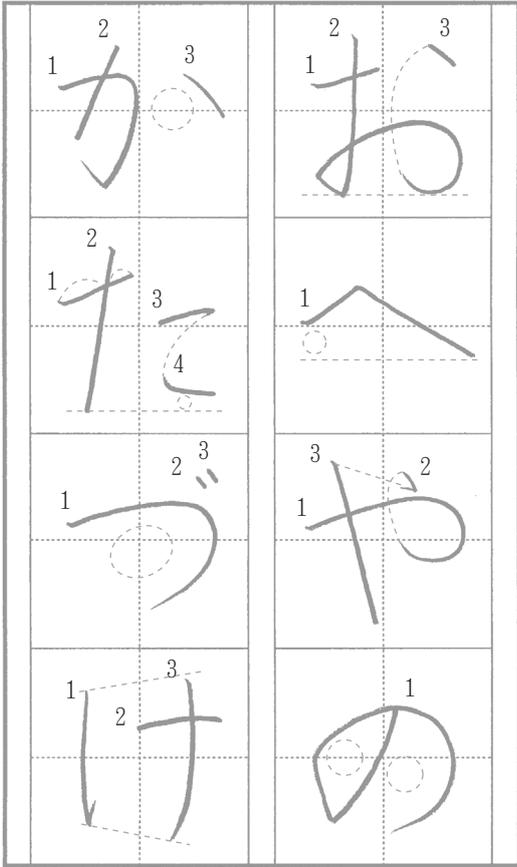
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月変わります。

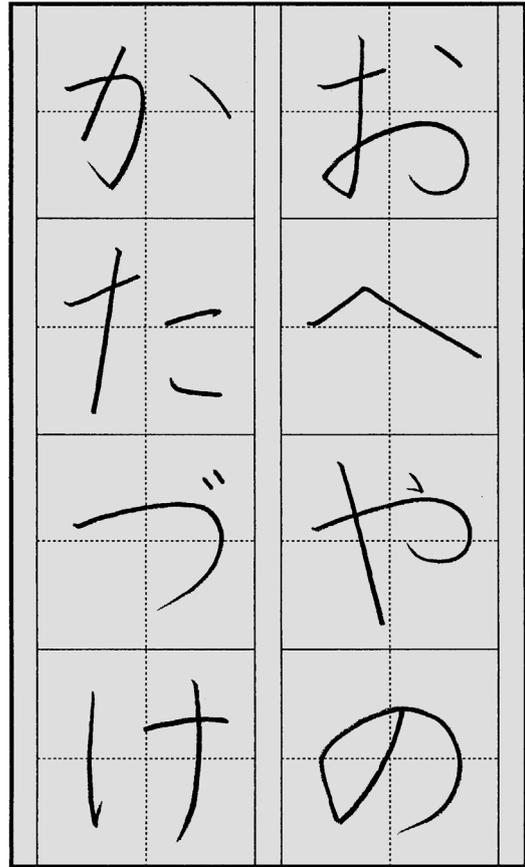
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)



◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



幼
う
年

小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようびく〉自由(黒色にかきえる)

ち	古 <small>ふる</small>
が	い
家 <small>いえ</small>	火 <small>ひ</small>
に	ば

一十ナ古古
一十オ木本
一ニ三手

新入1級

家	い	む
に	火	か
あ	ば	し
っ	ち	の
た	が	古

準初段以上

小二年

準初段以上

見 <small>み</small>	お
て	手 <small>て</small>
練 <small>レン</small>	本 <small>ホン</small>
習 <small>シユウ</small>	を

一ニ三手
一十オ木本

新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

も	く	お
練	見	手
習	て	本
す	何	を
る	度	よ

準初段以上

小三年

準初段以上

小四年

わ	と	愛
れ	時	着
泣	計	あ
く	が	る
弟	こ	は

準初段以上

※時計＝単語としてこのように読みます。

新入1級

は	愛
と	着
時	あ
計	る

〈用具〉自由(黒色に限る)

小五年

小	得	父
鳥	て	の
を	黄	許
飼	色	し
う	い	を

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

色	父
小	許
鳥	得
飼	黄

小四以上 尾郷翠光書

小六年

事	が	積
は	的	雪
延	中	の
期	し	予
に	行	想

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

イ イ 白 的 的	テ キ	テ キ	テ キ
イ イ 事 事	ジ 	ジ 	ジ
イ イ 延 延	エ ン	エ ン	エ ン
イ イ 期 期	キ	キ	キ
イ イ 積 積	セ キ	セ キ	セ キ
イ イ 雪 雪	セ ツ	セ ツ	セ ツ
イ イ 予 予	ヨ	ヨ	ヨ
イ イ 想 想	ソ ウ	ソ ウ	ソ ウ

自由(黒色に限る)

中一年 (行書)

雑	が	別
誌	欲	冊
を	し	の
購	く	付
入	て	録

中二・三年 (行書)

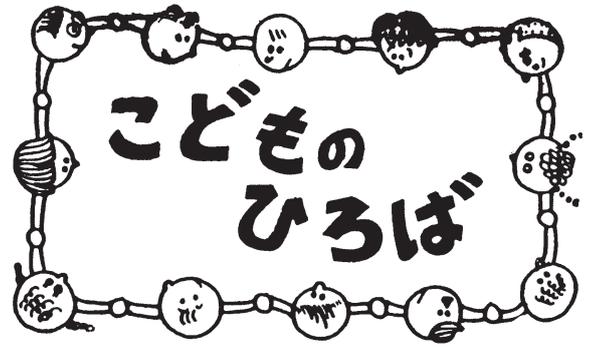
生	白	裁
地	菊	縫
を	模	教
服	様	室
に	の	で

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。

▼小三年以下の課題 飯 沼 順 光 書

つ	屋 <small>や</small>	キ	ま	朝 <small>あさ</small>
ら	根 <small>ね</small>	ラ	ぶ	日 <small>ひ</small>
ら	下 <small>した</small>	キ	し	を
た	の	ラ	く	あ
ち		と	び	て
		光 <small>ひか</small>		
		る		

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 2月23日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 大 坪 美 紀 書

よ	小 <small>ちひ</small>	冷 <small>ひ</small>	天 <small>てん</small>	寒 <small>さむ</small>
く	さ	え	体 <small>たい</small>	空 <small>そら</small>
見 <small>み</small>	な	た	観 <small>かん</small>	の
え	星 <small>ほし</small>	空 <small>くう</small>	測 <small>そく</small>	下 <small>もと</small>
る	も	気 <small>き</small>		
ね		で		

◎お手本はつけペン使用

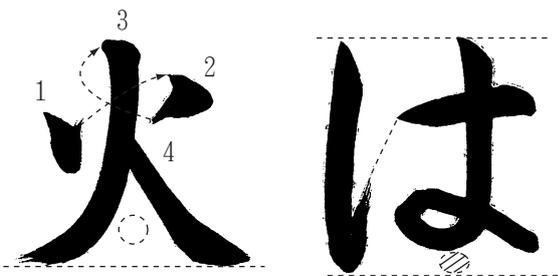


◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、低学年は四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年す小二年
玉樹たまき
小華書しょうか



小五
い黄色
鳥色

本お手
小三

計黄鳥
長めに
横画の間をそろえる

手本時
長めに

小四
時はと
計と

小三、小五年
水野香竹書

中二三
 模 白
 樣 菊

小六
 的 予
 中 想

小六(中二・三年)

奥村暢之書

最終画
 冊 想
 菊 的
 樣 別

中心

中一
 付 別
 錄 冊